

複合的なメディアを活用した 模擬エントリーシートのフィードバックサービス

上野 歩[†] 中村 亮太[†] 上林 憲行[†]

東京工科大学[†]

1 はじめに

近年、日本の大学生の就職状況が悪化しており、大学では学生の就職活動を支援するために様々な活動を行っている。一般的な就職活動はエントリーシート(以下、ES)の提出が最初のステップであり、就職希望者の足切に使う企業もある。そこで ES の添削を調査したところ、レポート等の添削作業を効率化するための研究はいくつか存在するが[1][2][3], ES を対象としたものはまだ見当たらなかった。また業者等が実施している ES の添削は電子ファイルの ES を対象としたものが多く、手書きの ES を受け付ける企業への対策には不十分である。

本研究では ES の作成や内容向上の支援を目的とし、大人数を対象とした手書きの ES の添削サービス構築を目指した。

2 フィードバックサービス

2.1 サービス概要

添削後の ES を手渡しや郵送等の手段で返却する場合、対象が多いほどサービス運用者に負担がかかる。そこで、添削後の ES をスキャンし PDF ファイルとしてサーバに格納する、その後 PDF ファイルの URL を記載した電子メールを学生に送信するという方法で返却することにした(図 1)。また添削者の負担を軽減するために、文章量や内容の不足といったパターン化が可能なものは機械でフィードバックメッセージを自動生成して返却時のメール文に挿入し、それ以外は添削者が ES に直接記入するという方法を取った。

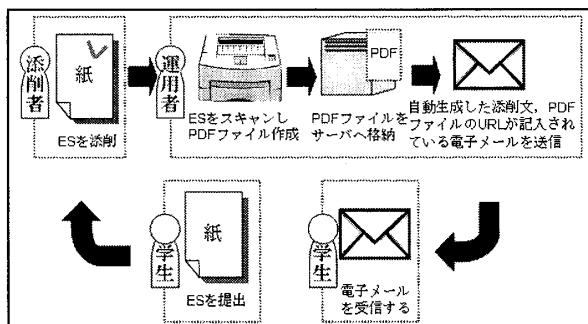


図 1: サービス概要図

2.2 模擬 ES 用紙

学籍番号の取得やフィードバックメッセージを自動生成するため、富士ゼロックス社製の OCR ソフトウェアを用いて模擬 ES を作成した(図 2)[4]。学籍番号はチェックボックスと 6 点ガイド式数値入力ボックスに記入させることで、スキャン時に作成される PDF ファイルの名前に適用されるようにした。また読み取りミスを想定し、スキャン時に tif ファイルが作成される手書きの記入欄も設けた。フィードバックメッセージを自動生成する方法にもチェックボックスを活用し、チェックの有無が PDF ファイルの名前に反映されるようにした。チェックボックスの項目は添削業者と話し合い決定した(図 3)。

図 2: 模擬 ES

☐ 文章量不足	☐ 論理性不足
☐ 文字サイズ	☐ 曖昧表現
☐ 悪筆	☐ 計画性・動機
☐ 誤字・脱字	☐ 方法論・具体性
☐ センテンス	☐ 将来性・ビジョン

図 3: チェックボックス

Feedback service of entry sheet using paper and electronic media

Ayumu UENO[†], Ryouta NAKAMURA[†], Noriyuki KAMIBAYASHI[†]

[†]Tokyo University of Technology, Ltd.

2.3 模擬 ES の集計と返却

模擬 ES の集計と返却が円滑に行なえるように、表計算ソフトで集計シートとメール配信シートを作成した。集計シートは PDF ファイルの名前が自動で取得でき、また名簿から学籍番号・氏名を転用することで模擬 ES に記入されたものと比較できるようにした。

メール配信シートを使うことで学籍番号や氏名(図 4 中①)、PDF ファイルの URL(図 4 中②)、模擬 ES のチェックボックスに対応したフィードバックメッセージ(図 4 中③)、全学生に共通の文章を自動で電子メールに記載し、複数の学生に一括で送信することができる(図 4)。

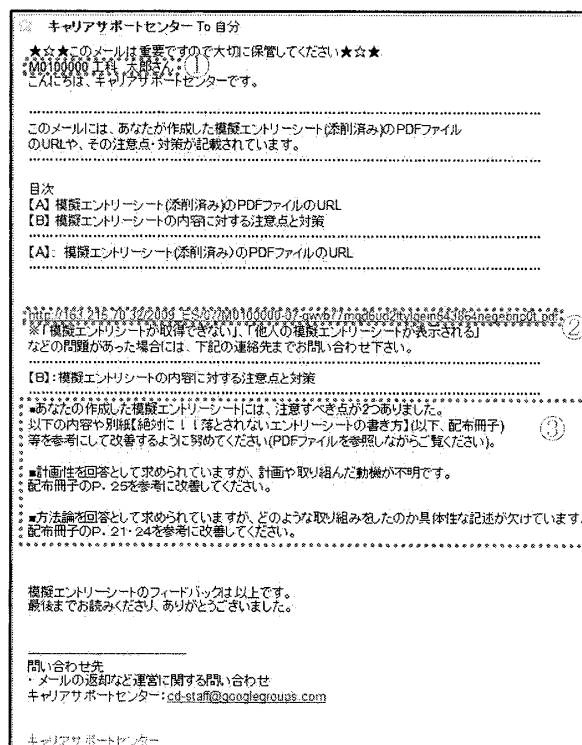


図 4: 学生に送信される電子メールの文章

3 サービス運用と評価

3.1 サービス運用

本研究で作成した模擬 ES を本学のキャリアサポートセンター(以下、CSC)主体の『エントリーシート作成支援サービス』に導入した。

対象者 本学の全学部 3 年生と大学院 1 年生(2103 名)

時期 2009 年 10 月-12 月、提出の締め切りは金曜日で 2 週間後の水曜日(12 日後)に学生に返却する、というサイクルを 7 回繰り返した。

概要 希望者は CSC で配布される模擬 ES に、対象とする企業情報と 400 文字以上の自己 PR を記入し CSC へ提出する。CSC は模擬 ES を学外の添削業者へ郵送で届ける。業者は模擬 ES を添削し A-C の評価をつけて本学へと返却する。運用者は模擬 ES のスキャンを行いサーバへ PDF ファイルを格納し、メール配信シートを用いて模擬 ES を提出した全学生に一括で電子メールを送信する。

3.2 サービス評価

サービス導入の結果、電子メールの送信ミスはなく、模擬 ES の提出者全員に正しく返却を行なうことができた。また 621 名がサービスを利用し、そのうち 35 名は模擬 ES を複数回提出した。35 名の評価の推移を調査したところ、4 割の学生が A 評価を、2 割の学生が B 評価を最終的に得ていたことから、自己 PR の内容が大幅に向上したことが確認できた。しかし 35 名の指摘の改善具合を調査したところ、「方法論・具体性」の項目があまり改善されていないことが判明した(図 5)。図 5 の指摘数とは 35 名の前回提出分の指摘の合計、改善数とは前回から改善された指摘の合計、その他とは新たに指摘されたものの合計を表している。

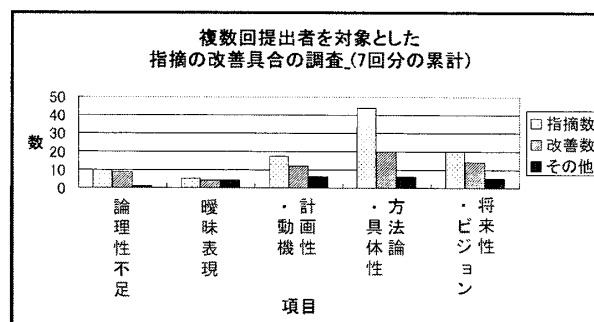


図 5: 指摘の改善具合の調査

4 おわりに

本研究で構築した模擬エントリーシートのフィードバックサービスは ES の作成や内容向上の支援を目的としていたが、複数回提出者の 4 割は添削評価が A となったため達成することができた。また運用に関しても、電子メールの送信ミス等の問題は起こらなかった。

今後の研究では、「方法論・具体性」という指摘の改善率を高める方法を考案する必要がある。

謝辞 本研究にご協力くださった、株式会社ジーアップキャリアセンターの片山友昭様、東京工科大学キャリアサポートセンターの三好公秀様に感謝の意を表します。

参考文献

- [1] 角世元, 他: “オンラインレポート添削支援システムにおけるターンアラウンド時間の分析” 情報処理学会論文誌 Vol148 No8, pp. 2781-2790 (2007)
- [2] 矢野米雄, 他: “日本語作文教育のためのネットワーク型添削支援システム CoCoA の構築” 教育システム情報学会誌 第 14 巻, 第 3 号, pp. 21-28 (1998)
- [3] 杉本洋美, 他: “コンピュータによる自動添削機能を備えたパフォーマンス型英文法学習教材の開発” 賛助会員発表 第 3 室(2107), pp. 172-173.
- [4] 株式会社富士ゼロックス DocuShuttle
http://www.fujixerox.co.jp/product/docushuttle/